

巻頭言



宮崎県知事 河野 俊嗣

世界とつながる「日本のひなた 宮崎県」へ

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた2021年でしたが、その中で開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、世界中の人々に大きな感動を与えてくれました。

本県では、8カ国の海外代表チームの事前合宿が行われたほか、県や8つの市が9カ国のホストタウンとして登録しておりましたが、直接面会しての交流が制限される中、私も出演した応援メッセージ動画を届けるなど、工夫を凝らした交流に取り組んだところです。

スポーツ合宿の聖地として「スポーツランドみやざき」を推進する本県としては、最大限のおもてなしができたものと考えており、今回の縁を今後の交流の取り組みにしっかりと繋げてまいります。

さて、本格的な人口減少社会が到来する中、本県においても外国人材の活用が進んでおり、2018年末から1年間の外国人住民数の伸び率は全国で1位となりました。

こうした中、本県では2019年6月に策定した「みやざきグローバルプラン」において、「多文化共生社会づくりの推進」を大きな柱として掲げ、生活全般の相談対応などを多言語で行う「みやざき外国人サポートセンター」の運営や、外国人住民に日本語学習の機会を提供する「地域日本語教育体制整備事業」などに取り組み、「国籍にかかわらず、誰もが暮らしやすい宮崎づくり」を進めているところです。

新型コロナウイルス感染症の収束後には、外国人住民の更なる増加が見込まれることから、多様な主体と連携しながら必要な施策を充実させていくこととしております。

また、みやざきグローバルプランでは、「グローバル経済交流の強化」を掲げており、宮崎牛や焼酎といった魅力ある県内生産品の輸出促進をはじめ、ゴルフツーリズムや農家民泊などによる外国人観光客の獲得などに取り組んでおります。

本県では、こうした恵まれた自然や豊かな食、温かな県民性などを「日本のひなた 宮崎県」というフレーズでPRしており、今後も、「ひなた」が生み出すさまざまな魅力を、世界に向けて発信してまいりたいと考えております。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響で社会が大きく変化し、急速なデジタル化や地方回帰の動きがある中、世界とのつながりを大切にしながら、地域の活力を維持し、あらゆる人々が夢や希望を持って、豊かさを実感できる社会の実現に向けて全力で取り組んでまいります。